大海原に立ち向かえる工学研究院・理工学府を目指して

工学研究院長　渡邉 正義

「競争的そしてグローバルな環境の中で活気ある教育・研究を実施、国際的に競争力のある研究を展開することを通し有為な人材を輩出する」ことが大学院大学の使命であると思っています。さらに、本研究院では産業界との連携を深めイノベーションを社会実装に繋げることも重要な課題です。

日本の学齢人口減少に伴う大学大競争時代という厳しい状況のなかですが、本学では平成 29 年度から都市科学部創設を中心とした全学改革が行われ、平成 30 年度より、理工学府の設置、環境情報学府の改組などの新しい枠組みが次々と生まれ、新しい発展のための準備が整ってきています。学生の皆さんにとってみると理工学部（学部）そして理工学府（大学院）の図式が完成したことになります。理工学府では、物理、化学、数学の領域で、これまでの工学に加えて理学の学位も取得できるようになりました。さらに博士課程前期の定員を 40 名増加させて 362 名とすることも出来ました。理工学府では、継承すべきものづくりの根幹的科学技術の更なる発展に貢献するとともに、Society 5.0 などから予見される、これからのものづくりにおいても中心的、先導的に貢献できる人材の育成を図っています。

このような厳しい時代であるからこそ、地道な努力で教育研究振興を図ることが大学力の最後の砦として非常に重要であると考えています。そのために、「教える教育（Teaching）から引き出す教育（Education）へのシフト」を最先端研究の実施を通して進めて行きます。具体的には、大学院生の主体である修士の段階で論文投稿まで漕ぎ着けさせること、そしてこれを高く評価することを研究院全体で進めています。我々は全国的に見ても相当優秀な学生を預かっています。「優秀な学生の能力を最大限に引き出すにはどうすべきか」を考え、前進して行きましょう。教育研究の活性化には、教員の努力だけではなく事務の方々の協力も不可欠で、「大学を守るための規則だけでなく大学を発展させるための規則」の視点も持って頂けるように協働を進める努力をお願いしています。すなわち教職協働で「やりがいのある研究院にする」、「頑張る人が報われる研究院にする」ことを目指しています。

緑あふれる常盤台キャンパスで世界中から集った仲間と共に伝統ある“名教自然”の理念のもとに教育研究に邁進し、実践的研究の拠点となるとともに、社会のリーダーとなる学生を育てて行きたいと思っています。一緒に頑張りましょう。